

# 岐阜県事業承継・引継ぎ支援センターの取組み状況

親族内承継の事例：ペンション四季彩  
**事業承継計画策定による『強み』の見える化と承継**



岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター  
 エリアコーディネーター 大橋 義史

## 相談に至るまで

郡上市明宝の宿泊施設・ペンション四季彩は、1989年にオープン。現経営者の吉田茂さんが40歳の時に会社を退職し、ご夫婦で始められました。四季彩の名の通り、春には芝桜・初夏には新緑・秋には紅葉・冬には一面の雪景色など、明宝の豊かな自然が楽しめます。特に冬場は、近隣にあるスキー場客の宿泊先とし



吉田 茂さん 吉田 寛さん

て多くの人々に利用されています。「地元を離れたことで郡上の魅力を強く感じるようになりました」と語るのは、ご子息で後継者の寛さん。大学卒業後は大手メーカーに就職し地元を離れていましたが、2011年に帰郷しペンションの運営を手伝い始めます。それから10年以上が経過し、今では寛さんが多くの役割を担うようになっていきます。当初は自分の代での廃業も考えていた茂さんでしたが、70歳を迎えるのを機に寛さんへの承継を決意されました。しかし、事業承継の流れや手続きなど分からないことも多い状況です。そこで寛さんは、普段から経営相談等の支援を頂いている郡上市商工会に相談されました。商工会からすぐに当センターのエリアコーディネーターである私に連絡があり、事業承継支援がスタートしました。

## 事業承継支援の流れ

2022年6月、郡上市商工会と

ともにペンション四季彩を訪問し、ご子息で後継者の寛さんと面談しました。これまでのペンションの歴史やこれからの目標や夢などをお話しいただく中で、茂さんご夫婦が培ってきた無形資産である独自の『持ち味』がたくさんあり、それらも丁寧に寛さんに承継していくことが重要であると考えました。

そこで、事業承継とは単なる手続きではなく、「ヒトの承継」「資産の承継」「知的資産の承継」などを多面的に検討し、時間をかけて取り組むことであることを説明しました。

「ヒトの承継」については、茂さんから寛さんにバトンタッチすることは双方で合意が取れています。しかし、『いつ』どのよう『承継』するかを具体化する必要があります。また、寛さんが新しく経営者になるにあたり、必要となるスキルの獲得や人脈の形成なども考えていく必要があります。

「資産の承継」については、土地・建

物などの事業用資産や借入金等も含め、各々の資産を『いつ』どのよう『承継』するかを検討する必要があります。

「知的資産の承継」については、経営理念や茂さんご夫妻が培ってきた信用・実績・人脈等やノウハウなどの目に見えにくい経営資源(強み)を、失うことなく寛さんに受け継いでいく必要があります。そのためには茂さんと寛さんの間で対話を行い、これらの知的資産の棚卸しを行い、認識を共有することが必須のプロセスとなります。

これらの様々な資産を失うことなく円滑に承継するためには、事業承継計画を策定し、その計画に基づいて着実に実行していくことが望ましいことを説明しました。当センターでは、専門家を活用した事業承継計画策定の支援を行っており、税理士や中小企業診断士等の専門家が対応し、最大で5回まで無料で利用できるため具体的で深みのある計画の策定支援ができます。当支援の利用をお勧めしたところぜひ活用したいとのこと、次の支援ステージに進むことになりました。

## 専門家を活用した事業承継計画策定支援

2022年7月、センターが選任



ペンション四季彩

した専門家(中小企業診断士)と郡上市商工会とともにペンション四季彩を訪問し、現経営者の茂さん・後継者の寛さんと面談しました。

専門家(中小企業診断士)は、事業の沿革や現状、茂さん・寛さんのそれぞれの思いなどを丁寧にヒアリングし、ペンション四季彩の『強み』や『持ち味』を『見える化』していきました。事業承継の課題を明確化し、「いつ・誰が・何を実行するか」という具体策を、茂さん・寛さん双方が理解・納得する形で事業承継計画にまとめていきました。

事業承継の課題の中には税金面で考慮が必要なポイントがあり、当支援制度の範囲内で税理士を派遣し、疑問点や不安の解消のための助言を行いました。

2022年10月、事業承継計画が完成。茂さん・寛さん双方に計画

書に署名頂きました。事業承継の具体的な取組を、これからこの計画書の内容を基に進めていくこととなります。

## 事業承継の取組実行と後継者の夢・想い

現在、事業承継計画に沿って着実に取組を進められている状況です。後継者の寛さんからは、今後の取組やスケジュールが整理できたことへの感謝の言葉を頂きました。

ペンション四季彩では、オリジナルのどぶろく「水沢上ヶ池」の製造・販売の取組も進めています。2019年にどぶろく製造の規制緩和特区が郡上市全域に拡大されたことによる取組です。寛さんは、もともと多くの人にこのどぶろくを味わってもらいたいとの思いが強く、地域振興に繋がる新規事業に熱い想いを抱いておられます。今後も様々な支援施策を活用することや郡上市商工会などの身近な支援者に相談することで、着実に事業承継後の取組を進展させていかれることを心より願っています。



オリジナルのどぶろく「水沢上ヶ池」